

原木需給情報システム開発事業関連海外情報

No.2, 23 April 2013



ヨーロッパの木材市場の動向

1 リーマン・ブラザーズ社の破産

リーマン・ブラザーズ社は、2008年の破産に至るまでの数年間に、その投資に充てるためかなりの額の資金を借り入れ、その大部分は、住宅関連の財産に投入された。それは、ハイリスク・ハイリターンで、ブームの間はすさまじい利益を生み出した一方、財産価値のたった3~4%の下落がその投資額全体の価値を完全に0にしてしまうことを意味していた。リーマン社のような投資銀行は、貯蓄銀行に適用されていたリスクテイキング行為を制限する法制に従ってはいなかった。

2008年、リーマン・ブラザーズ社は、低所得者向け住宅ローンの継続的な危機により、先例のない損失に直面し、巨大な損失が2008年1年間を通して生じた。

リーマン・ブラザーズ社は、2008年9月15日に破産保護の申請をした。そしてこのリーマン・ブラザーズ社の破産は、今なお、ほとんどのヨーロッパ、さらにまた木材生産市場に大きな影響を及ぼしている。

2 針葉樹板材

リーマン・ブラザーズ社の破綻に伴い、2008年および2009年には消費の大幅な減少が生じ、ヨーロッパ中の建築部門全体に大きなマイナスの影響をもたらした。一方、次に重要な部門である包装業界では、景気回復に伴い、需要は2009年にゆっくり回復した。

針葉樹板材の購入量は、危機の前にハイ・レベルの建築をしていた国々、例えば、アイルランド、オランダおよびスペインにおいては、減少し続けた。建設部門において改革が行われなかったことは、短期間では消費の本質的かつ安定的な状況改善がありそうもないことを示していた。

一人当たりの針葉樹板材の消費という点では、北欧の国々やバルト諸国の一部は、0.35 m³/人を越える水準だったが、オーストリアだけがより高い消費水準(0.51m³/人)で、それは、継続して行われた材木推進キャンペーンが成功した結果であった。

ドイツは、依然として針葉樹板材の最大の市場で、フランスが2位、英国、イタリアおよびオーストリアがそれに続いていた。消費は、2010年には一旦回復するようになっていたが、2011年は前年と同じレベルに留まったままだった。

針葉樹板材の生産は、2008年および2009年にはともにダウンした。2009年には下降傾向がゆるやかになったものの、生産量は2008年より5.7%少なく、2007年のピークよりも11.5%低かった。生産の減少は、主要な国々に広範囲に広がった。しかしながら、減少量は地域ごとに様々で、フィンランドとオーストリアでは最大の縮小だった。輸出と国内市場の弱さに加えて、輸入針葉樹板材の品質の劣化は、これらの国々の生産の回復をさらに妨げた。生産は、2010年と2011年には回復した。

ヨーロッパの針葉樹製材工場は、絶えず変動する市況に順応し、将来の競争力を維持していた。上述したように、2008年には需要が減り、2009年までに、多くの製材工場が生産を縮小させていた。取られた手段は、製造ラインを減らすことから、一時的にあるいは永久に製材工場を閉鎖することに及んだ。製材工場は、可能ならば緊急ではないメンテナンスを遅らせるといったような、追加的なコスト削減手段をも講じた。そうした行為のインパクトは、2009年の初め頃、生産能力の削減という形で、北欧の国々においてははっきりと見られた。中央ヨーロッパでは、その効果は、最近やっと目に見えるようになった。

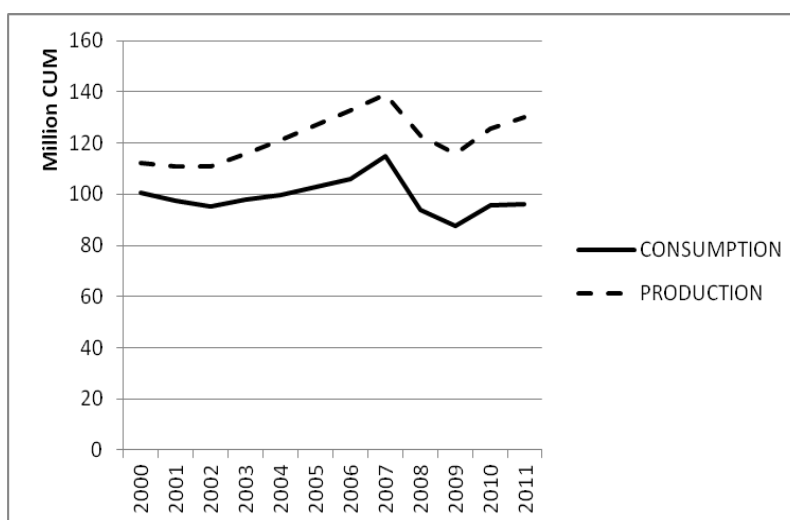


図1 ヨーロッパにおける針葉樹板材製品の消費、および生産（2000-2011）

出所:FAOSTAT

3 広葉樹板材

ヨーロッパにおける広葉樹板材の総消費量は、2009年には2008年と比較して、23.7%下がり、2008年には2007年と比較して16.7%下がった(図2)。これらの数字は、特にヨーロッパの3大広葉樹消費国であるイタリア、フランス、およびドイツが消費の猛烈な減少の影響を受けていることを示している。ヨーロッパにおける広葉樹板材の消費は、家具産業と床材産業の需要の低迷によって、大きな影響を受けてきた。2010年には、少しだけ需要の回復が見られたが、2011年にはもう見られなくなった。

2009年のヨーロッパにおける広葉樹板材の生産は、2008年よりも20%少ない1200万m³であった(図2)。こうした下降傾向は、2007年と2008年の間の11.8%という最も大きな減少にはっきり感じられる。

ドイツとフランスにおいては、広葉樹板材の生産の減少を記録した。長年にわたりフランスは、欧州連合の中で広葉樹板材の最大の生産者だったが、2009年にこの地位を失い、同年に約40%の広葉樹板材の生産増加を記録したルーマニアにその地位を譲った。2010年には、生産が増加したが、2011年は前年と同水準だった。

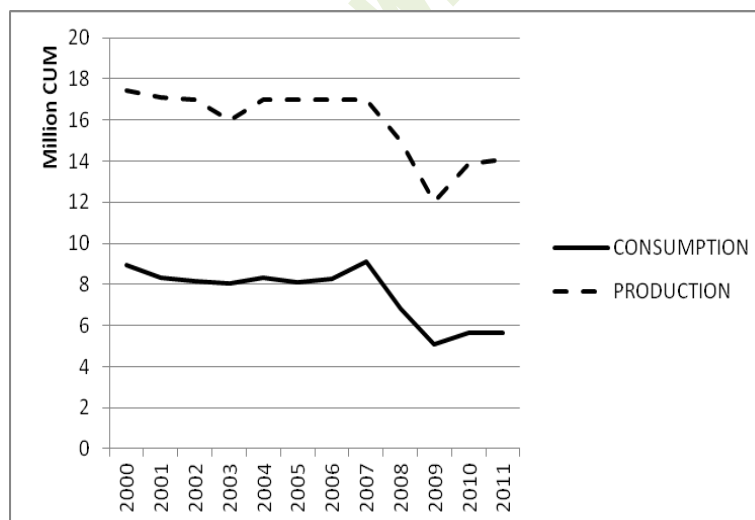


図2 ヨーロッパにおける広葉樹板材製品の消費、および生産 (2000-2011)
出所:FAOSTAT

ヨーロッパ広葉樹板材製材工場産業機構(EOS)は、ルーマニアの広葉樹板材の生産が大きく伸びている一方で、ヨーロッパ広葉樹板材の製材工業部門は、2009年に、予想されていたよりさらに業績が落ちていたと発表した。

EOSによれば、ヨーロッパの広葉樹板材の製材産業は、グローバルな経済危機

に対応して、工場のラインの削減と工場閉鎖の両方によって生産を大幅に縮小した。

沢山の製材能力が恒久的に削減された。

下降基調が工場閉鎖を促す一方で、EUWID(ドイツの建設業者)は、広葉樹板材製材工場部門では「統合の長波はない」し、少なくとも中央ヨーロッパにおいては、この部門は小さなばらばらの加工工場がメインであり続けていることを示唆している。

JAWIC